

イラク派遣反対

## 断食リレー2年目へ

## 延べ750人、撤退の日まで



末延芳晴さん

デモ行進でもヒラ配りでもない方法で、自衛隊のイラク派遣に静かに異議を唱える人々がいる。それぞれの生活の場で24時間「断食」をし、次々とバトンタッチしていく方式のハンガーストライキ。1月以降、全国で延べ約750人が参加し、1日も途切れていない。「自分を犠牲にして抗議する市民がいることを発信し続けたい」。派遣は

2年目に入るが、断食のリレーは撤退の日まで続けられる。

最初に自衛隊派遣が決まった昨年暮れ。京都市北区の文芸評論家末延芳晴さん(62)は、「日本が世界に誇れる平和憲法が否定されてしまう」と危機感を募らせた。「派遣は認めない」と粘り強く表明する方法として、リレー式のハンストを思いついた。

今年1月26日、仲間4人が東京・新宿の喫茶店に集まり、水で乾杯してハンストに突入。その後、発起人ら十数人を軸に受け持ち日を決め、毎日だれかが自宅や仕事場で、正午から24時間、水以外は口にしない生活をしている。ホームページ(H.P.)などで知った人も加わり、参加者は次第に増えていった。

政府が派遣を1年延ばすことを決めた12月9日から10日にかけても、末延さんが食事を断つていた。「多くの人が反対しているのに、国会で十分に審議もせず決めてしまっているのか」ハンストといっても原稿を書くなどして、ふたん通りに過ごす。末延さんの場合、最近はず3回のペース。75kg近かった体重は56kgまで落ちた。「体調はいい。ハンストの前後に食べ過ぎないのがコツ」と言う。

その4日前は、東京都世田谷区の作家香取俊介さん(62)の受け持ちだった。空腹は、食糧難だった敗戦直後の記憶を呼び戻す。「大量生産、大量消費の文明にブリーキをかける気持ちも込めている」と香取さん。

ハンスト終了後、香取さんはHP上の報告で「力で他国をおさえ込むのは誤りであることを、ブッシュ政権は早くさとってほしい」と記した。グループは、非暴力の精神で運動を続ける気持ちを含めて「ガンジーの会」と名乗る。派遣に反対の中学生以上の人はいだれでも参加できる。体調に応じて中止でき、1〜2食抜く形でもいい。HP (<http://www.h2.dion.ne.jp/~hansuto/>)では憲法や対米関係にも会員らの議論が及ぶ。